



暑熱対策はお早めに!!

牛は暑さに弱い動物です。気温がそれほど高なくても、湿度が高ければ暑熱ストレスを受けます。気温と湿度を総合して評価する方法として、温湿度指数（THI）が活用されます。THIは表1の計算式で算出され、この値が72を超えると、暑熱ストレスを受けると言われています。湿度が70～80%程度であれば23～24℃で72を超えてきます。油断は禁物です。

暑熱による牛のダメージは大きく、乾物摂取量や乳量の低下、発情行動の減少・受胎率の低下など、生産性や繁殖に悪影響を与えます。早めの対策を心がけましょう。

推奨される暑熱対策

(1) 早めの換気対策

窓を取り外して開口部を広げたり、扇風機や換気扇の準備をしましょう。外気を取り入れることにより、牛舎内の湿度を下げることが重要です。

また、風速1m/秒の送風により牛の体感温度は6℃低下します。図のように牛体に直接風を当て、体感温度を下げるようにしましょう。

(2) 直射日光の防止

直射日光が牛舎内に入ると急激な気温の上昇が起こります。西日対策のすだれや遮光ネットの設置、ビニールハウスでの寒冷紗の使用など、直射日光対策を実施しましょう。

(3) 新鮮できれいな水の給与

暑熱時は飲水量が大幅に増加します。飲水量が不足すると乾物摂取量が減少し、発育や繁殖への悪影響が大きくなります。飲水量を減らさないためにも水槽やバケツはこまめに清掃し、いつでも清潔で新鮮な水が十分に飲めるようにしましょう。

(4) 良質粗飼料の給与とミネラル・ビタミンの増給

牛はエサを食べるとルーメン発酵による熱が発生します。暑熱時に品質の悪い刈り遅れの粗飼料を給与すると、より多くの発酵熱が生じるため、乾物摂取量を著しく低下させます。暑熱時は良質で嗜好性の良い粗飼料を切断して給与し、乾物摂取量の低下を防ぎましょう。

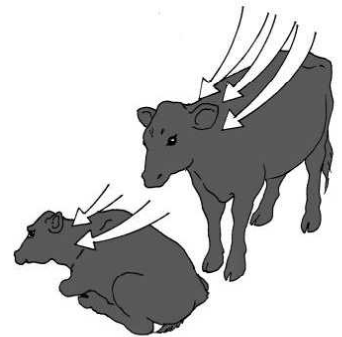
また、暑熱時はビタミン・ミネラルの消耗が激しくなります。通常より1割程度の増給が推奨されます。

表1 温湿度指数

$$THI = 0.8T + 0.01H(T - 14.3) + 46.3$$

T=温度(℃)	H=相対湿度(%)	
THI	<72	快適
THI	73～79	やや暑い
THI	80～89	暑い
THI	90～98	厳しい暑さ
THI	>98	危険

臨床獣医2005.07より引用



首から肩にかけて風速1.5～2m/秒の風が当たるよう扇風機や換気扇の稼働を確認しましょう。